

露地キク9割出荷不能

JAおきなわ 停電・暴風の影響で

JAおきなわ(大城勉理事長)が台風24号による農作物被害総額について、14億3128万と試算していることが2日、分かった。サトウキビは県が9月30日発表した6億5270万円と変わらなかったが、キク類で4億4757万円にのぼる。特に南部地区で被害が顕著で、停電などの影響で露地栽培の90%以上、平張りのハウスでも30%以上の約25万平方メートル以上で出荷不能に。JAは2日、那覇市内で災害対策会議を開き、組合員への支援や沖縄電力への早期復旧に関する緊急要請などを決めた。

南部地区ではキク類だけで3億1752万円となる見通しだ。暴風で倒れたり茎が曲がったりして、等級が下がったものもあるが、長時間の停電が被害を拡大させた。

キクは、12月の出荷の前に、花芽が開かないよう、夜間に電気で照らして開花を調整する必要がある。3日間電気が切れると開花してしまい商品

にならないという。

また、台風後の塩害を最小限に抑えるために水をまくスプリンクラーも停電のため、使えなかった。塩害で葉が枯れたという報告も多く上がった。中北部の一部地域では2日午後8時現在も停電が続く。被害は今後さらに広がる予想される。

JAは対策会議で、金融部門や資材部門など組織を上げて支援することを決めた。高齢者農家をメインにJA職員が労働力の提供も検討する。補助率や時期などは今後決定される。また、沖縄電力への電力早期復旧についての要請も決めた。キクの電気照明施

設やJAの集出荷施設への早急な電力供給を求めた内容。

大城理事長は「25号もまた接近する見込みだ。暮らしへの復旧が優先なのは承知しているが、農家にとっても死活問題だ」と語った。

(政経部・川野百合子)